

REBOOT
ISSUE

WIRED

2018
VOL. 31

IDEAS + INNOVATIONS

New
Economy

ぼくらは地球をこうアップデートする

ON SALE

NEXT ISSUE VOL.32

DIGITAL WELL-BEING

SALE ON MARCH 2019

アート×テクノロジー×社会を
考える場

2019 2.21 THU ▶ 24 SUN

SCHOOL OF THE FUTURE

未来
学校祭

ARS ELECTRONICA
TOKYO MIDTOWN

EVENT GUIDE

GiriGiri /
On the Edge

#こころの未来をアップデート

TOKYO MIDTOWN

ARS ELECTRONICA

ARTS
COUNCIL
TOKYO

TokyoTokyo
FESTIVAL



未来の学校祭は、東京ミッドタウンとアルスエレクトロニカによる

未来の社会をみんなで考える新しいお祭りです。

アーティストによる社会への問いかけをきっかけに、

さまざまなクリエイターや企業、ショップが来場者とともに、未来の社会を考えます。

コンセプトは「アートやデザインを通じて、学校では教えてくれない未来のことを考える新しい場」。

イベント来場者は Exhibition、Performance、Workshop、Talk など

子供から大人まで楽しめるプログラムを自由に体験することができます。

未来について考えるうえで重要なヒントが見つかるかもしれません。

The “SCHOOL OF THE FUTURE FESTIVAL” by Tokyo Midtown and Ars Electronica
is a new event for thinking of our future society together with a broad variety of visitors.

Artists, companies and stores at Tokyo Midtown will show visitors their finely honed works, projects and products.

The concept of School of the Future is

“a new place to think about future, something that is not taught in school, through art and design.”

Visitors to this event can freely experience fun programs, such as exhibitions, workshops and talks, for kids to adults.

Surely, important hints might be found in thinking about the future.

未来の学校とは？

「未来の学校」とは、東京ミッドタウンとアルスエレクトロニカが協働し、イベント参加者とともに、未来の社会を考えるプロジェクトです。コンセプトは、「デザインやアートを通じて、学校では教えてくれない未来のことを考える新しい場」。東京ミッドタウンを舞台に、より豊かで持続可能な未来の社会を形作るためのさまざまなアイデアやイノベーションを生みだし、それに人々が触発されていくことを目指しています。

http://www.tokyo-midtown.com/jp/ars_midtown/

“SCHOOL OF THE FUTURE” is a collaborative project in which Tokyo Midtown and Ars Electronica work together to think about future society together with event participants. The concept is “a new place to think about future, something that is not taught in school, through art and design.” With Tokyo Midtown as a stage, the project aims to generate various ideas and innovations for creating a future society that is richer and more sustainable, and to inspire people about them.



ARS ELECTRONICAとは？

「アルスエレクトロニカ」とは、オーストリアのリンツ市を拠点に40年にわたり「先端テクノロジーがもたらす新しい創造性と社会の未来像」を提案し続けている、世界的なクリエイティブ機関です。アート、テクノロジー、社会をつなぐ出会いの場を創造し、横断的「未来」を提案。毎年開催されるメディアアートに関する世界的なイベント「Ars Electronica Festival」は芸術・先端技術・文化の祭典として知られています。

<http://ars.electronica.art/>

Ars Electronica is a global creative organization based in Linz, Austria that has been proposing “new creativity and visions of society's future that cutting-edge technology will bring about” for 40 years. It creates places to connect art, technology, and society, and proposes ideas about the future while cutting across these domains. The Ars Electronica Festival, a world event held every year about media art, is widely known as a festival of art, cutting-edge technology, and culture.



©Nicolas Ferando, Lois Lemmerhuber

GIRI GIRI / On the Edge

テーマ

ギリギリ

GiriGiri / On the Edge

ギリギリ。それはセーフアウトかわからない境界の最前線に対するチャレンジです。デジタル技術の進化により、いま、私たちは、かつてないほど完全さを追い求め、効率化や生産性を重視し、失敗を許さない空気にあふれた社会で生活しています。

失敗や多様な結果に対して寛容になり、新しいものを生み出すチャレンジの心意気を育むことは、未来をつくるうえで大きな力になります。

この展覧会では、社会でいま問わなければいけない問題に向き合う境界を意識した“ギリギリ”な作品が登場します。

私たちはアートとテクノロジーによるイノベーションが起こる最前線を見つめることができるでしょう。

“GiriGiri” is a conceptual frontier, a boundary, an edge along which what is barely ok, and outright wrong is questionable. We live a society pursuing unprecedented completeness, emphasizing efficiency and productivity, full of air that does not allow failure, pushed by the evolution of digital technology. Becoming tolerant of failure and diverse results, and fostering the spirit of challenge that creates new things. These are the great forces creating the future.

In this exhibition, art projects facing social topics that must be asked in our society, including prototypes created for new products and innovation, conscious for boundaries on-the-edge.

Through these cutting-edge projects, we will be able to see the forefront of art, society and innovation.

EVENT MAP

ギリギリ・エキシビジョン

GiriGiri Exhibition

生物と人工物の境界

The edge between living beings and artificial creations

ギリギリ・スクエア

GiriGiri Square

アトリウム (ガレリア B1)
Atrium (Galleria B1)

No. 04 05 06

先端研究と新たなプロトタイプへの挑戦

Cutting-edge research and challenges to new prototypes

ギリギリ・ラボラトリー

GiriGiri Laboratory

ガレリア 1F・2F
Galleria 1F/2F

ガレリア 1F ▶ No. 07 08 09 10

ガレリア 2F ▶ No. 11 12 13 14

匠の技

Master craftsmanship

ギリギリ・プロダクト

GiriGiri Product

プラザ B1
Plaza B1

No. 15

日常と非日常の境界

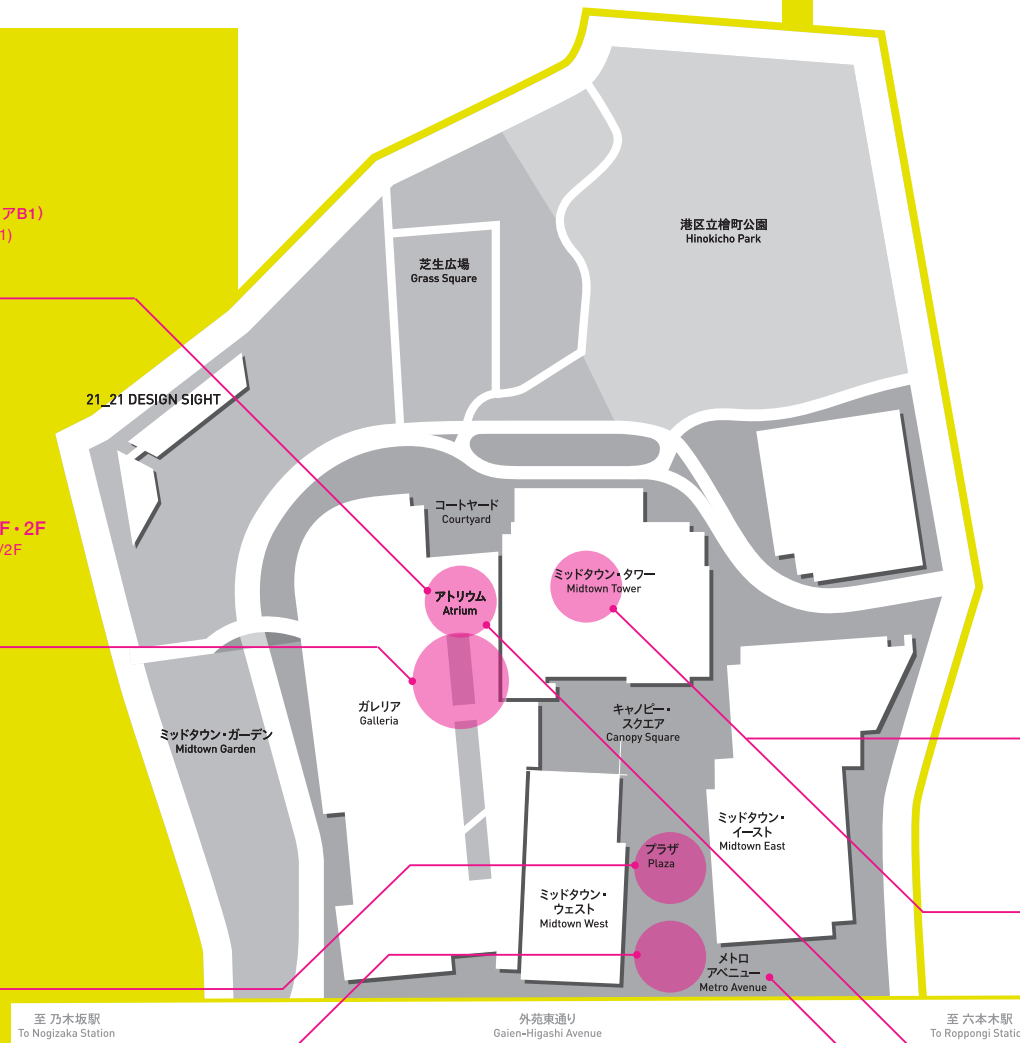
The edge between the ordinary and the extraordinary

ギリギリ・ルーム

GiriGiri Room

プラザ B1
Plaza B1

No. 01 02 03



至 乃木坂駅
To Nogizaka Station

外苑東通り
Gaien-Higashi Avenue

至 六本木駅
To Roppongi Station

至 国立新美術館
To The National Art Center, Tokyo

TOUR PROGRAM

六本木、旅する美術教室

第5回

「メディアアートを通じた未来の見方」

2.22 FRI 14:00 - 15:15

※事前申込制・無料

クリエイターやアーティストのみなさんと一緒に美術館やイベントを回り、その人ならではの、美術館やアートの見方を学ぶ「六本木、旅する美術教室」。第5回の先生はアートディレクターのえぐちりかさん。アルスエレクトロニカ・フェスティバル ディレクターのマーティン・ホンツィックさんを案内人に、「未来の学校祭」を巡ります。えぐちさん、マーティン・ホンツィックさんとともに未来について考えてみませんか。

詳しくはWEBサイトへ

<http://6mirai.tokyo-midtown.com>

六本木未来会議
デザインとアートと人をつなぐ場

国際デザイン・リエゾンセンター
(ミッドタウン・タワー5F)
International Design Liaison Center (Midtown Tower 5F)

ミッドタウン・カンファレンス ROOM 9
(ミッドタウン・タワー4F)
Midtown Conference ROOM 9 (Midtown Tower 4F)

ギリギリ・ワークショップ

GiriGiri Workshop

No. 18 19

ギリギリ・トーク

GiriGiri Talk

No. 20 21 22 23 24 25

ギリギリ・パフォーマンス

GiriGiri Performance

No. 16 アトリウム (ガレリア B1)
Atrium (Galleria B1)

No. 17 プラザ B1 メトロアベニュー
Plaza B1, Metro Avenue

CONTENTS

ギリギリ・エキシビジョン GiriGiri Exhibition

ギリギリ・ルーム GiriGiri Room

01 Balance From Within P06

02 The Long Now P07

03 ObOrO P07

ギリギリ・スクエア GiriGiri Square

04 πTon P08

05 SEER: Simulative Emotional Expression Robot P09

06 私はイルカを産みたい… P09

ギリギリ・ラボラトリー GiriGiri Laboratory

07 Heteroweave P10

08 ANA AVATAR P11

09 心を調えるシステム P11

10 Future Flora P12

11 “GIRIGIRI adjustment” COBOTTA P13

12 U-Topia P13

13 ギリギリ・キット P14

14 センサーエラー P14

15 ギリギリ・プロダクト GiriGiri Product P16

ギリギリ・パフォーマンス GiriGiri Performance

16 エレクトロニコス・ファンタスティコス! P18

17 虚構大学2019年入学試験 by 六本木未来会議 P18

ギリギリ・ワークショップ GiriGiri Workshop

18 WIRED NEXT GENERATION
2050年みらいの給食:昆虫編
ーわたしたちはなにを食べている? P19

19 ギリギリ・キット ワークショップ by アルスエレクトロニカ P19

ギリギリ・トーク GiriGiri Talk

20 Talk Session 1
ギリギリへの挑戦 P20

21 Talk Session 2
アルスエレクトロニカのギリギリ P20

22 Talk Session 3
アーティスト・イン・カンパニー P21

23 Talk Session 4
メディアアートはTOKYOを変えられるか? P21

24 Talk Session 5
21世紀の粋1ー生物と人工物の境界ー P21

25 Talk Session 6
21世紀の粋2ー日常と非日常の境界ー P21

TIME TABLE P22

ギリギリ・ ルーム GiriGiri Room

📍プラザB1 Plaza B1

日常と非日常の境界

The edge between the ordinary and the extraordinary

日常がちよっとしたことで非日常に変わる、そうした現象に注目する作品が集まります。

どこにでもありそうな家具、誰もが知っている物が

少し変わった方法で私たちの前に現れた時

私たちはもっと繊細に日常と非日常の境界を見つめるようになるでしょう。

This room contains a collection of works that focus on the phenomenon of the ordinary changing into the extraordinary with little things.
Once we see plain old everyday furniture or objects we use all the time appear in ways slightly different to how we are used to, we will get a better feel for the edge between the ordinary and the extraordinary.

Exhibition 均衡と崩壊の境界

No. 01 Balance From Within

バランス フロム ウィズイン

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍プラザB1「無印良品」前 Plaza B1



©Jacob Tonski

170年前に作られた古いソファが1本の脚で
佇む作品です。緻密なコンピュータ制御と、
人工衛星にも使われるリアクションホイールに
よるロボット機構によって、ソファは常にバラ
ンスを保っています。いつバランスが崩れるか
わからない均衡と崩壊の境界に挑んでいるこ
とが、ひと目で見て取れるでしょう。



Artist

©Jacob Tonski

ジェイコブ・トンスキー
アーティスト

時間や重力といった事象を使って、おもちゃと道具の中間のようなキネティックな作品を制作。現在はシカゴ美術館附属美術大学で教鞭をとる。
<http://jacobtonski.com/>

メッセージ

「社会関係に内在する脆弱さというメタファーを、架空のものでなく本当に起こりうる危険性(例えばソファは実際に倒れる可能性がある)で表現したくて生まれた、常にバランスをとり続けるキネティックな作品です」

Exhibition 脆弱と安定の境界

No. 02 The Long Now

ザ・ロング・ナウ

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍プラザB1「無印良品」前 Plaza B1



Photo by Kristor Vrancken

シャボン玉は、通常わずか数分間しか安定しません。そのため古典的なヴァニタス(虚無)のシンボルのひとつとされ、古くから瞬間的なものや人生のはかなさを表します。「The Long Now」は現代的なアプローチによって、シャボン玉の寿命をのばし、永遠にとどめておくことを目指しています。シャボンの泡は脆弱性と安定性の境界に浮かび続けるのです。



Artist

Photo by Jessica Schaller

ヴェレーナ・フリードリヒ
アーティスト

オーガニック、電子、彫刻をメディアとして使い、タイム・ベースドなインスタレーションを制作。オッフェンバッハ造形大学などで教鞭をとる。
<http://heavythinking.org/>

Credits: Realised within the framework of EMARE Move On at OBORO's New Media Lab and a residency at Rustines[Lab, Perte de Signal, both in Montréal, Canada. With support of the Culture Programme of the European Commission, the Goethe Institut, the Conseil des arts et des lettres du Québec and FACT.

Exhibition 制御と制御不能の境界

No. 03 ObOrO

オボロ

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍プラザB1「無印良品」前 Plaza B1

提灯の火や、霞んだ月明かりなど、臍げな揺らぎを持つ光は、古来より人々を魅了してきました。「ObOrO」は、そんな制御ができない偶発的な光の揺らぎを生み出す照明装置です。糸やワイヤーといった支えを一切持たず、空気によってのみ制御される光の球は、不完全な制御によって空間を揺らぎ、危うさ、脆さの魅力を生み出します。「ObOrO」は、その場に存在する不確かなもの、制御と制御不能の境界に浮かんでいるのです。



Artist

©ryo kishi

Ryo Kishi
アーティスト

2010年東京大学大学院修了。技術やツールにこだわることなく現象に着目した実験制作を行い、国内外で作品を発表。文化庁メディア芸術祭新人賞などを受賞。
<http://ryokishi.org/>

メッセージ

「誰も一度は、ロウソクの火に手をかざしたことがあるだろう。この行為は、とても本能的であり、衝動的だ。そんな人間の衝動を駆り立てる作品を作りたいと思い制作したのがObOrOである。“不完全”な“制御”という相反する2つの要素を作品に組み込むことで、臍げな揺らぎが生まれ、思考でなく感性を刺激する存在となる。ぜひ衝動の赴くままに浮遊するボールに触れ、危うさ、脆さの魅力を自らの手で感じてほしい」



©ryo kishi

ギリギリ・スクエア GiriGiri Square

📍アトリウム(ガレリアB1) Atrium

生物と人工物の境界

The edge between living beings and artificial creations

AIやロボット、バイオテクノロジーの発達によって
身体や知性、生命そのものに迫る技術が進化し続けています。
ギリギリ・スクエアには、新たな生き物や生き物らしさに着目し
生物と人工物の境界に迫った作品が集まります。

The rise of artificial intelligence, robotics, and biotechnology is evolving into technologies that are pushing upon our bodies, intelligence, and even on life itself. The GiriGiri Square brings together works that focus on new types of life or the appearance of life to show the edge between living beings and artificial creations.

パフォーマンス時間 Performance Time

2.21 THU 🕒17:45 - 18:10

2.22 FRI 🕒18:30 - 18:55

2.23 SAT 🕒15:30 - 15:55 🕒18:30 - 18:55

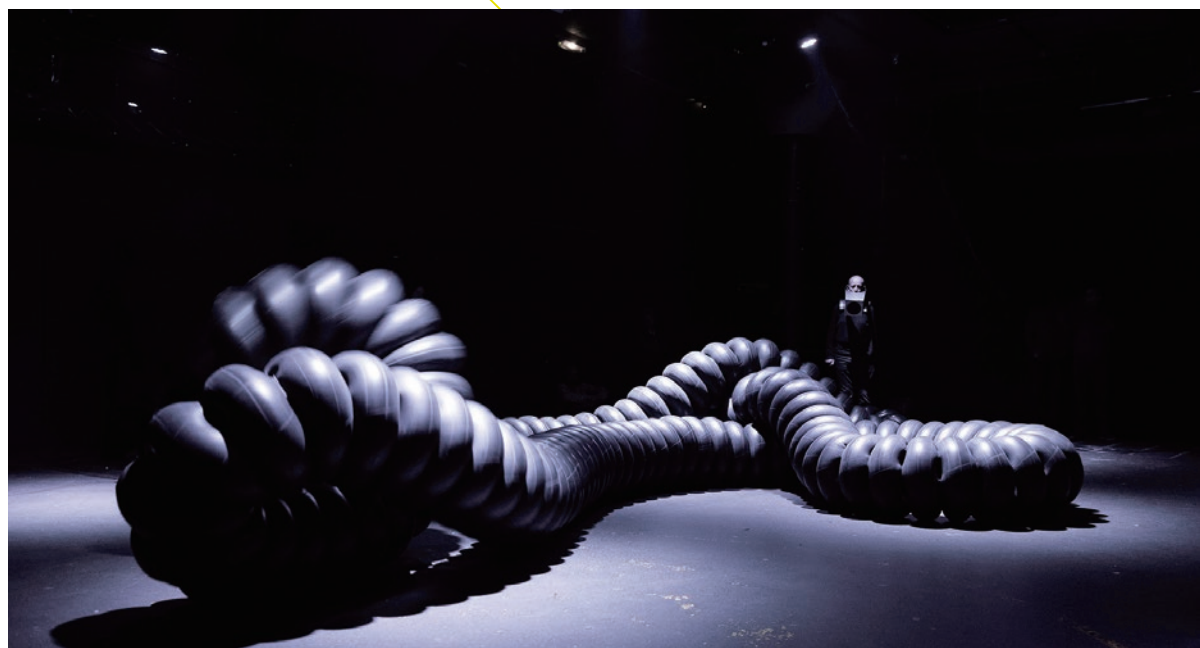
2.24 SUN 🕒15:30 - 15:55

Exhibition 生き物と人工物の境界

No. 04 πTon

ピトン

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍アトリウム(ガレリアB1) Atrium



©Xavier Voiron

無脊椎動物のような巨大なゴムチューブが床をうごめくサウンド・インスタレーションです。チューブは人工的な音の装置を持った4人に囲まれて、曲がりくねり、動き回ります。原始的な生き物のように動く「πTon」は、生き物と人工物の境界にある生き物らしさについて、見る人に意識させるでしょう。



©Xavier Voiron

Cod.Act コッド・アクト
アーティスト

ミュージシャン、作曲家であるアンドレと建築家であるミッシェルのデコスター兄弟によるアートユニット。サウンドやインタラクティブな要素を駆使した数々の作品を発表している。

<http://codact.ch/>

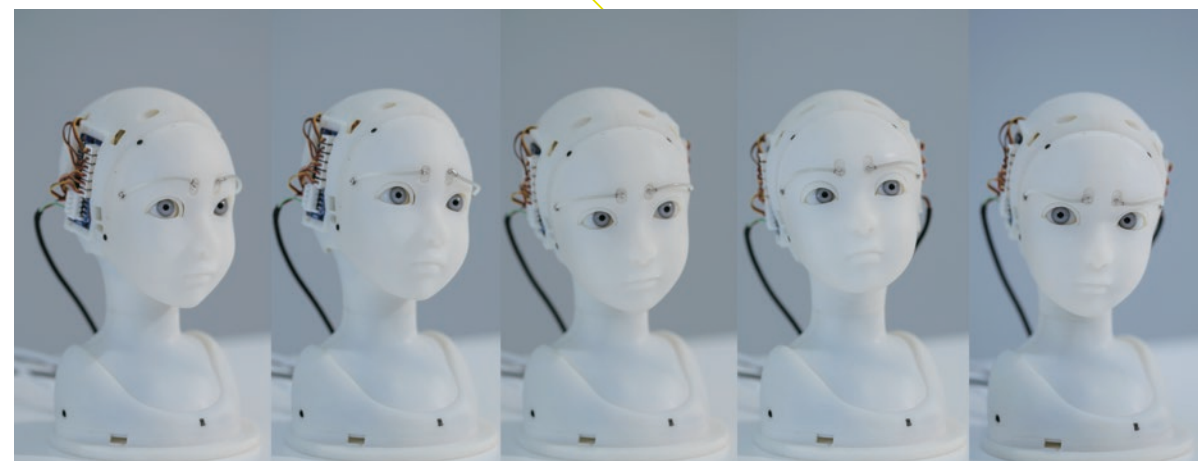
credit: Cod.Act are Michel and André Décosterd (CH)

Exhibition ヒューマンとヒューマノイドの境界

No. 05 SEER: Simulative Emotional Expression Robot

シーア

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍アトリウム(ガレリアB1) Atrium



視線と表情の表現力を追求した小型のヒト型ロボットです。左右の眼球を注視点に結ぶ制御によって「視線」を作り出し、意思を持って外界や他者に注意を向けているかのような印象を作り出しています。またカメラで対面者を捕捉して、アイコンタクトと、眉による表情ミラーリング(顔まね)を行います。こうした対面での非言語的な応答性がいかに「人らしさ」を感じさせ、それが重要であるかを示す作品です。



Artist

藤堂高行 Takayuki Todo
アーティスト

アート、デザイン、エンジニアリングを横断する先端技術領域で学び、「ヒト型ロボットの視線インタラクション表現」をテーマに研究・作品制作を行う。

<http://www.takayukitodo.com/>

制作協力:
制御プログラム: 三井所高成、電子回路設計: 小山裕貴

Exhibition 欲求と倫理の境界

No. 06 私はイルカを産みたい...

I Wanna Deliver a Dolphin...

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍アトリウム(ガレリアB1) Atrium

人口過剰と緊張した地球環境を考え、人間を増やすのではなく絶滅の危機にある種(例えばサメ、マグロ、イルカなど)を代理出産することを提案する、スペキュラティブな作品です。生き残るために子孫を得ること、生きるために他の生物を食べること、それらが動物の代理出産という形でつながる、生物としての欲求と倫理の境界を模索する作品です。



Artist

長谷川 愛 Ai Hasegawa
アーティスト、デザイナー

生物学的課題や科学技術の進歩をモチーフに、現代社会に潜む諸問題を掘り出す作品を国内外で展示。2017年4月から東京大学大学院にて特任研究員としても活動。

<https://aihasegawa.info/>



ギリギリ・ラボラトリー GiriGiri Laboratory

📍ガレリア1F・2F Galleria 1F/2F

先端研究と新たなプロトタイプへの挑戦

Cutting-edge research and challenges to new prototypes

先端的な研究や、企業の高い技術や新しい分野へのギリギリの挑戦に注目し、そこから生まれたプロトタイプが展開します。

This laboratory looks at cutting-edge research and prototypes created by companies using advanced technologies and On the Edge ventures into new fields.

Exhibition 伝統織とデジタル素材の境界

No. 07 Heteroweave

ヘテロウィーブ

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍ガレリア1F インフォメーション前 Galleria 1F



© Yasuaki Kakehi

伝統的な西陣織に対してさまざまな異素材を緯糸（よこいと）として挿入し、新たな機能を埋め込むことを目的とします。西陣特有の織構造や箔を用いた製法に、機能性材料やデジタルファブリケーション、印刷技術によって作られた素材を掛け合わせることで、色や硬さの動的変化、さらにはインタフェースとしての機能を付与します。伝統工芸と現代的なテクノロジーの統合による美や価値の創出を追求する挑戦です。

Artist

Heteroweaveプロジェクトチーム

東京大学寛康明研究室、株式会社細尾、山口情報芸術センター(YCAM) 寛康明、細尾真孝らのディレクションのもと、研究者、デザイナー、アーティストなどによって構成される。

<http://xlab.iii.u-tokyo.ac.jp/project/heteroweave/>

credit:

ディレクション: 寛康明、細尾真孝、YCAM InterLab
001 (color) 素材研究: 中丸啓、寛康明 装置: 武井祥平、加治洋紀
002 (digitize) インタフェース: 寛康明 映像・音響: 加治洋紀
003 (form) 素材研究・造形: 西原由実、藤井樹里、武井祥平、寛康明

メッセージ

YCAMにて『人類にとって布とは何か?』という壮大なテーマのもとで始まったコラボレーションであり、分野を超えたチームで実験・試作・展示を繰り返してきました。テクノロジーによる利便性の追求ではなく、1200年以上の系譜で培われた西陣の美をテクノロジーで引き立て、さらには更新する端緒になることを目指しています

Exhibition 移動の境界

No. 08 ANA AVATAR

エーエヌエー アバター

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍ガレリア1F 「JACOB COHEN」前 Galleria 1F



究極の移動手段である「瞬間移動」を既存の技術を用いて実現できないだろうか? という問いから、新たな移動手段「ANA AVATAR (アバター)」が生まれました。遠隔地に置かれたAVATAR (遠隔操作ロボット) を操作し、見る、聞く、動く、触る技術などを用いて、自分の意識・技能・存在感を瞬間移動させます。いよいよ人類が距離・時間・文化の壁をこえ、さらにハンディキャップやエイジングなどの身体的な制約をこえてつながる時代へ。

Exhibitor ANAホールディングス

ヘリコプター2機のベンチャー企業として創業し、数々のチャレンジを繰り返して日本最大のエアラインに成長してきたANA。本年2月17日には新たに羽田=ウィーン線を就航。そんなANAの中に、既存組織とは一線を画したイノベーション創出部隊として、『デジタル・デザイン・ラボ』が2016年に発足し、アバターをはじめとした未来のエアライン像を描いている。

<https://ana-avator.com/>



Exhibition 無意識と意識の境界

No. 09 心を調えるシステム

How to Train your Breathing to Strengthen the Mind

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒11:00 - 21:00 📍ガレリア1F 「JACOB COHEN」前 Galleria 1F

Exhibitor

株式会社東芝

社会課題や顧客の魅力的な利用体験 (ユーザーエクスペリエンス) からの気づきを起点に、新たな事業の芽を生み出す取り組みを行う。

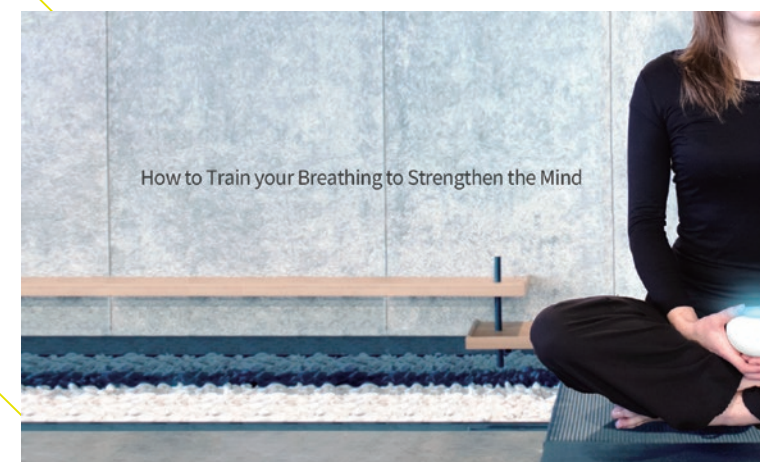
<https://www.toshiba.co.jp/>

TOSHIBA

東京エレクトロニクスシステムズ株式会社

東芝グループ企業として、社会インフラ製品で培った技術で、社会に新しい価値を提案。また、東芝における新たな事業の芽を生み出す取り組みにも参画し、価値の創造活動も行う。

<https://www.toshiba.co.jp/tecsc/>



座禅やメディテーションを行う際に使う腹式呼吸をセンシングし、呼吸に改めて意識を向け、心を調えるシステムを紹介します。私たちの呼吸は自律神経と密接に関わっており、無意識で行う呼吸と意識して行う呼吸の2種類が存在します。呼吸をすることに対して意識を向け、無意識に行われている呼吸を感じることで無意識と意識の境界を探ります。

No. 10 Future Flora

フューチャー・フローラ

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 11:00 - 21:00 9 ガレリア1F「JACOB COHEN」前 Galleria 1F



© Giulia Tomasello

女性の生殖器の感染症予防のため、バクテリアを培養する、家庭で行える培養キットのプロトタイプ。タブーにされがちな泌尿器・生殖器への病気予防のレベルが向上することで、自分の身体への意識を高め、セルフケアを助けます。バクテリアを身につけるというアイデアは、まさに洋服やアクセサリといったファッションと医療の境界を超える挑戦だといえるでしょう。

Artist

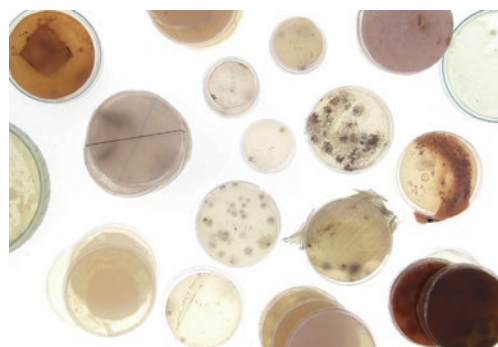


ジュリア・トマゼッロ
デザイナー、リサーチャー

ウェアラブル、バイオテクノロジーをテーマに、技術と私たちの身体の境界を探っている。研究を通して医学と社会科学をつなぐ革新的なツールを発明。
<https://gitomasello.com/>

メッセージ

「すでに多くの女性たちは自分たち自身の健康への強い意志に押し動かされ、生物学とセルフ・メディケーションの境界を越えはじめています。このプロジェクトを通して、日本の皆さん、特に女性の皆さんがこのようなトピックで話し合うことに自信をもってもらえることを期待しています。また、皆さんが自分たちの身体へどのようなセルフケアを行っているのか、ぜひフィードバックを受けたいと思っています」



No. 11 “GIRIGIRI adjustment” COBOTTA

コボッタ

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 11:00 - 21:00 9 ガレリア2F「Aēsop」前 Galleria 2F



Exhibitor

株式会社デンソー

先進的な自動車技術、システム、製品を提供するグローバルな自動車部品メーカー。私たちの手から生まれる無数の最先端技術。それを必要としているのはクルマだけではない。クルマの製品づくりで培った技術とモノづくりの知見で、ロボットなどの産業機器や農業支援をはじめ、さまざまな分野での課題に応えるソリューションを開発。人のくらしや社会が、より良い未来へ近づけるように。私たちは自分たちの技術を信じ挑戦し続ける。

<https://www.denso.com/jp/ja/>**DENSO**

AI協力 | 株式会社エクサウィザーズ

AIを活用した産業革新と社会課題の解決に取り組む。ロボット領域での双腕型マルチモーダルAIロボットをはじめ、介護、人材、医療、金融領域でも各業界のリーディングカンパニーとさまざまな提携を進めている。

<https://exawizards.com/>

EXAWIZARDS

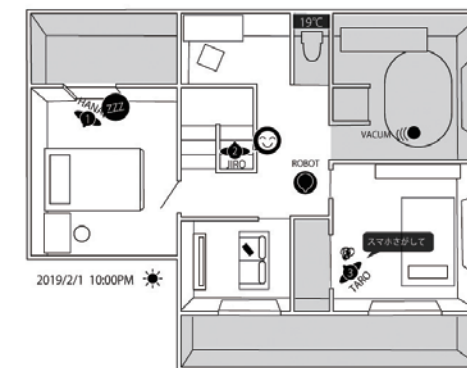
「ちょうど良いさじ加減」なんて人間にしかできないと思っていませんか？ 人にやさしいフォルムに、持ち運びしやすい小さな体。「COBOTTA（コボッタ）」は、専門知識を持たない人でも、驚くほど簡単に使いこなすことができるアームロボットです。人工知能（AI）× COBOTTAは、指示された分量の調味料を、まるで人間のような繊細な動きで、スプーンでぴったり正確に計り取ることができます。そんなギリギリのさじ加減への挑戦に、あなたも参加してみませんか。

No. 12 U-Topia

ユートピア

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 11:00 - 21:00 9 ガレリア2F「Aēsop」前 Galleria 2F

完璧な「人工知能」が先回りしてサポートしてくれる快適で便利な暮らし。もしそんな世界が実現したら、それはあなたにとって「ユートピア（理想郷）」でしょうか？ あなたは未来の「人工知能」となり、ニンゲンに「心地よい体験」を届けるために奮闘します。あなたの判断によって、人々は喜んだり、不快になったりすることもあるでしょう。この作品を通じて、人類と人工知能が共存する未来はどうあるべきか、を問いかけます。



Exhibitor 株式会社アイ・エム・ジェイ すまのべ!

株式会社アイ・エム・ジェイのR&D（研究開発）ユニット。「アイデアとテクノロジーで世の中に!を」をコンセプトに、革新的で魅力的な顧客体験を創造するための先端テクノロジーの活用アイデアを研究。
<https://sumanobe.imjp.co.jp>

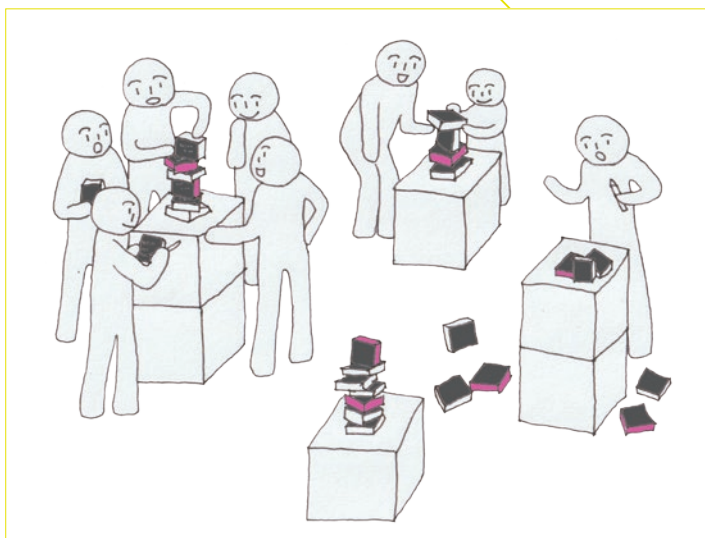
IMJ
Part of Accenture Interactive

Exhibition ギリギリのアイデアへの挑戦

No. 13 ギリギリ・キット

GiriGiri Kit

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 11:00 - 21:00 9 ガレリア2F「Aēsop」前 Galleria 2F



ギリギリとは時間や空間の緊張感を表すだけでなく、アイデアや表現、技術を極限まで磨くプロセスだといえます。「ギリギリ・キット」は、そんなギリギリを触発するツールキットです。積み木型のアイデア・問いかけブロックを使ったブレインストーミングのプロトタイプを体験できます。

Exhibitor アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ
リサーチ・ラボラトリー

アルスエレクトロニカのR&D部門として1996年に設立。シンクタンクとスタジオの機能を持ち、数々の未来を考えるプロジェクトを実現する。

<https://ars.electronica.art/futurelab/>

ARS ELECTRONICA
FUTURELAB

メッセージ

「ギリギリ・キットは今回の展覧会のために作った体験用素材です。働き方、教育、公共空間に潜む社会課題…ギリギリ・キットを使って、私たちをとりまく今の社会のあたりまえを疑い、普段は言いづらい意見を出し合い、ギリギリで格好いいアイデアを目指してください」

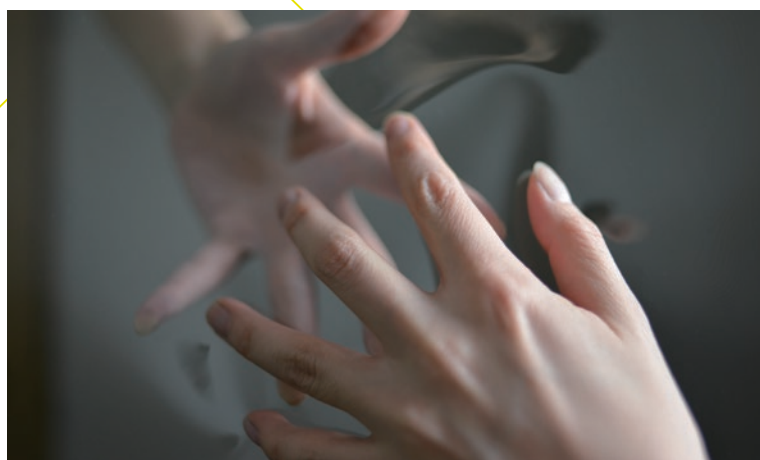
Exhibition リアルとデジタルの境界

No. 14 センサーエラー

SENSOR ERROR

2.21 THU ▶ 2.24 SUN 11:00 - 21:00 9 ガレリア2F「Theatre H.P.FRANCE」前 Galleria 2F

客観的な視点で映し出される「私」が映った画面でゲームを体験してもらいます。その体験は「私」の身体を離れ、まるで幽体離脱をしたような感覚に陥るでしょう。身体を動かしている私が「リアル」と感じるのか、それとも画面を通してデジタル上に映し出される私に「リアル」を感じるのか。「私」のリアルとデジタルの境界線はどこにあるのでしょうか。



※混雑時は先着順により整理券を配布

Exhibitor Hakuten Corporation

リアル体験による「感動」と「共感」を企業の成長につなげるエクスペリエンスマーケティングカンパニー。エクスペリエンスマーケティングのスペシャリスト集団として、イベントや展示会などの人と人が直接出会う「場」・「空間」において、さまざまな体験価値を創造し、企業と生活者がふれ合う機会をプロデュースする。
<https://www.hakuten.co.jp/content/creative/>

H A K U T E N

これまでの「未来の学校」

東京ミッドタウンとアルスエレクトロニカの協働プロジェクト「未来の学校」は、これまでもユニークな企画展を開催してきました。

2017.8.18 FRI ▶ 8.20 SUN

もしも展 一視点を変えてみる世界ー

#01

4つの「もしも」を通してものごとをさまざまな視点から見渡し、柔軟で独創的なアイデアを刺激する試みでは、大人から子供までがいつもと違う世界を体験。かぶると顔が大きくなる箱「BigFace」、腰に装着する機械のしっぽ「シリフリン」、人が通ると裏面に切り替わるボード「SWITCH」、プレイヤーがゲームの中の“すべてのもの”に乗り移り、石ころから鳥、原子から宇宙までを疑似体験する「Everything」が登場しました。

Artist デイリーポータルZ/テクノ手芸部 (BigFace)
クワクボリョウタ (シリフリン、ニコダマ)
David O'Reilly (Everything)



2017.10.13 FRI ▶ 10.16 MON

OUT OF CONTROL展

#02

「デザインされた情報」にどう触れていくか、「制御不能 (アウト・オブ・コントロール) となった情報」にどう接していくべきか、をテーマにした企画展。Google ストリートビューに記録された人物画像を利用した「Street Ghosts」、人工知能によって文字のような線の集合体を書き出していく「形骸化する言語」という2つの作品を通じて、自動的かつ機械的に瞬時にデザインされていく膨大な情報のなかで私たちがどのように未来を描いていくのかを問いました。

Artist Paolo Cirio (Street Ghosts)
やんツー+菅野創 (形骸化する言語)



2018.10.26 FRI ▶ 11.4 SUN

GOOD BYE WORK展

#03

「みらいの働き方」をテーマに展開された企画展は、“子猫の姿をしたAIが政見放送をする2039年”を描いた映像作品「Kitty AI」や、金属を用いた3Dプリンティング技術をもつアームロボットがアムステルダムにある橋に実際に建設するプロジェクト「Amsterdam's 3D Printed Steel Bridge」が紹介されました。人間にかわってAIやロボットが自立して働く社会を迎えた今、私たち人間にしかできない仕事とはなにかを考える場になりました。

Artist Pinar Yoldas (Kitty AI)
MX3D & Joris Laarman Lab
(Amsterdam's 3D Printed Steel Bridge)



Exhibition

No. 15

ギリギリ・ プロダクト GiriGiri Product

●11:00 - 21:00

📍プラザB1 Plaza B1

匠の技

Master craftsmanship

東京ミッドタウンの店頭に並ぶ商品には

さまざまなギリギリの限界への挑戦が隠されています。ふだん知ることのない
シークレット・ストーリーをもったプロダクトが一堂に会します。

The line-up of products in Tokyo Midtown shop windows in one way or another all hide On the Edge elements. Here you can find out a range of products hiding secret untold stories behind them.

1本の木材に蒸気を当て型にはめていくことで、木を思い通りの形に加工する「一本曲げ木」の技術は、木のしなり具合に注意を払いながらギリギリの力加減で曲げていくというもの。日本が世界に誇るデザイナー柳宗理(やなぎそうり)がデザインした通称「ヤナギチェア」を、1300年の歴史を持つ「飛騨の匠」の技で復刻したのがこの1脚。背もたれからアームにかけての優美な曲線を形づけているのが、ギリギリの曲げ木の技術です。

A. YANAGI COLLECTION アームチェア [259,200円]

HIDA(ヒダ)
ガレリア3F / 03-5413-7637

A.

飛騨の匠の

ギリギリの曲げ木技



B.

屋久杉の生命力を
ギリギリまで

世界遺産・屋久島の標高500メートル以上の山地に自生する「屋久杉」。江戸時代に伐採が進んだものの、伐採後に利用されなかった木が残り、それらは200年近く山に横たわっていても朽ちることなく樹木の姿をとどめています。「土埋木(どまいぼく)」と呼ばれるこれらは、自然に発酵しエネルギーをたたえています。この「高貴な廃材」の木片を染料にして煮出し、オーガニックコットンを染めました。生命力をギリギリまで生かきった、壮大な物語を感じられる1枚です。

B. 屋久杉染めオーガニックコットンストール [20,520円]

pas de calais(パドカレ)
ガレリア2F / 03-6455-5570



金属の中でも柔らかい銅は、薄すぎると頼りなく、厚すぎるとは重くなってしまうため、実用品である鍋に適したギリギリの厚みを「へら絞り」と呼ばれる手作業で探っていきます。調理の際に吹きこぼれにくいよう、鍋の口を少し内側に狭める「三味線胴」はへら絞りの証。また、鍋をつかむ「やっこ」も鉄の棒から1本ずつ職人が作ります。しっかりと焼きを入れた、工具に使えるほどの強度が自慢。そんな職人技は今継承の危機にあるといえます。次の世代にも残したいギリギリの逸品です。

C. 木屋やっここ鍋鋳めっき [5寸18,360円 / 6寸21,600円 / 7寸25,920円]、鍋用やっこ [8,100円]

日本橋 木屋
ガレリア3F / 03-5414-2088



C.

次の世代にも残したい
ギリギリ受け継がれる
金属加工の技たち



コルクを抜かずに細いニードルで開けたギリギリの小さなコルク穴からワインを注ぐツール。注ぐと同時にボトルの中には、純度99.0%の窒素ガスが注入されるためワインの劣化を防ぎます。世界50カ国以上で愛用されています。

D. CORAVIN [73,440円]

Flagship 212 KITCHEN STORE
ガレリア3F / 03-5413-7686

手紡ぎの糸を染め、織り上げたインドの綿布(カディ)に刺繍をほどこしました。服にできる手仕事の限りを尽くしたブラウスには、ギリギリまで素朴な服づくりへの愛情が込められています。“春の七草”をモチーフにした7色が揃います。

E. 歳時記 BLOUSE 上巳 [52,920円]

45㍻
ガレリア1F / 03-3470-2245

D.

ギリギリの小さな穴で
ワインを密封保存



F.

ギリギリの漆塗りの
かけらピアス



E.

素朴な手仕事と愛情を
ギリギリまで込めて



G.

ギリギリの細さを極めた
江戸木箸



H.

シンプルな驚きを!
ギリギリの追求



I.

ギリギリの精密さで
やさしく灯す

コマを回すとリング、点、スティックの3要素が空中に浮遊しているかのように視覚的錯覚が起こり「!」が現れます。原子と分子、電磁気学にインスパイアされギリギリまでシンプルを追求。驚きを秘めた新発想のコマです。

H. +d スピン [各972円]

KONCENT
ガレリア3F / 03-6432-9157

島根県・隠岐の島の杉材を使い、わずか2cm角のフレームに細いライトと配線を隠した、まるで木が光るようなランプ。コンマ単位で調整したギリギリの幅と精密さで溝や穴を掘り、伝統の「隠し留めほぞ継ぎ」で仕上げた逸品です。

I. [a piece of forest] テーブルランプ

HY-301 [105,840円]
WISE・WISE tools
ガレリア3F / 03-5647-8355

ギリギリ・パフォーマンス GiriGiri Performance

ギリギリ・パフォーマンスで注目するのはコラボレーションです。

アーティストは、人同士、あるいは使う素材や道具、テーマとせめぎ合いながら、一期一会の作品を作り出します。

アーティストがさまざまなコラボレーションの先に見せるギリギリのパフォーマンスを、ぜひ体感してください。

Collaboration is the focus of the GiriGiri Performance.

Each unique artwork is created through the conflict between people, materials, tools, or themes involved.

Experience for yourself the On the Edge performance shown beyond the many collaborations by artists.

Performance 音楽と美術の境界

2.23
SAT

No. 16 エレクトロニコス・ファンタスティコス!

ELECTRONICOS FANTASTICOS!

🕒 21:00 - 21:30 📍 アトリウム (ガレリア B1) Atrium



古い電化製品を楽器に変えて演奏し、都市の廃棄物から新たに生まれる音楽の祝祭を妄想・実験するプロジェクト。今回は、アトリウムの空間的構造とそこに集う人々とコラボレーションし、人がつながることで電気回路をつなげ、音を鳴らし合奏する「通電の儀」を執り行います。



Photo by Mao Yamamoto

和田 永 Ei Wada
アーティスト / ミュージシャン

物心ついた頃に、ブラウン管テレビが埋め込まれた巨大な蟹の足の塔がそびえ立っている場所で、音楽の祭典が待っていると確信し今に至る。
<https://eiwada.com/>

メッセージ

「使い古されたテクノロジーの可能性をギリギリまで見出す」

Performance ギリギリの大学入試

2.23
SAT

No. 17 虚構大学2019年入学試験

by 六本木未来会議

Entrance Exam 2019 for Speculative Fake Campus

入試パフォーマンス 2.23 SAT 🕒 16:00 - 18:00

展示 2.21 THU ▶ 2.24 SUN 🕒 12:00 - 19:00

📍 プラザ B1 メトロアベニュー Plaza B1



ITの高度化により、個人が識別され、さまざまな活動がスコア化される未来がやって来ようとしています。ワクワクしますね。虚構大学 Speculative Fake Campus (SFC) は、そんなスコア化された未来を生き抜くための知恵やノウハウを身につけた人材を輩出するために開校されました。みなさん、ぜひ本校の入試を受けて、光り輝く未来を手に入れよう! ナンチャッテ。



ウラニウム (脇田 玲+石原 航+ゲスト)

フェイク・カルチャーや制度化をテーマに活動するアーティスト・コレクティブ。2019年に脇田玲 (<http://akirawakita.com>) と石原航 (<http://kooh.me>) を中心に活動を開始。

ギリギリ・ワークショップ GiriGiri Workshop

for
Kids

あなたにとってのギリギリってどんなもの?

ギリギリ・ワークショップでは、参加者一人ひとりがギリギリに挑戦し

ギリギリのアイデアを繰り出すワークショップを行います。

自分にとってのギリギリを考えることで

限界を乗り越え、チャレンジする心を刺激します。

What is your personal On the Edge?

The GiriGiri Workshop helps each person explore his or her On the Edge, to come up with On the Edge ideas.

Coming face to face with your own On the Edge will help stimulate your ability to take challenges and go beyond your boundaries.



参加方法 未来の学校祭 特設サイトよりお申し込みください。 http://www.tokyo-midtown.com/jp/event/school_future/

Workshop 「食べる」の境界

2.23
SAT

No. 18 WIRED NEXT GENERATION 2050年みらいの給食:昆虫編 -わたしたちはなにを食べている?

🕒 11:00 - 13:00 (開場 10:30) 🎟 無料

📍 インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター (ミッドタウン・タワー 5F) International Design Liaison Center

気候変動や人口増加などによる食糧難が予想され、黄色信号が出ているわたしたちの食卓。培養肉、完全食、3D プリント食品など新たなイノベーションが日夜生まれているなか、注目すべきが「昆虫食」です。いまの食卓がどんな危機に晒され、みらいの食卓はどう変わり、そしてなぜ昆虫食が重要なのか? 2050年にはみんな食べている (かもしれない) コオロギの粉末のチップスを食べながら、「みらいの給食」の献立を考えましょう。美味しいレシピを考案すれば“食べるの境界”を乗り越えられる?

対象年齢 ▶ 小学校3年生以上 主催 ▶ 「WIRED」日本版

WIRED

Workshop ギリギリのアイデアへの挑戦

2.24
SUN

No. 19 ギリギリ・キット ワークショップ

by アルスエレクトロニカ

🕒 10:30 - 12:00 (開場 10:00) 🎟 無料

📍 インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター (ミッドタウン・タワー 5F) International Design Liaison Center

アルスエレクトロニカによる「ギリギリ・キット」を使ってギリギリのアイデアに挑戦したあとは、ギリギリ・エキシビション (展覧会) の特別ガイドツアーに出かけます。ギリギリの作品を生み出すアーティストたちの心意気を学ぶ、アートエデュケーションを体験します。

対象年齢 ▶ 小学校高学年以上 定員 ▶ 20名

ARS ELECTRONICA

講師



小川 絵美子 Emiko Ogawa
ブリ・アルスエレクトロニカ ヘッド
アーティスト、キュレーター、エデュケーター



小川 秀明 Hideaki Ogawa
アルスエレクトロニカ・ジャパン ディレクター
クリエイティブ・カタルリスト (触発を起こす人)



久納 鏡子 Kyoko Kunoh
アルスエレクトロニカ・フューチャラボ
アーティスト、リサーチャー

ギリギリ・トーク GiriGiri Talk

さまざまな分野で境界に挑戦する人たちは
どんなことを考え、どんなトライ&エラーをしているのでしょうか？
「未来の学校祭」の参加アーティスト、企業に加え
毎年開催されるフェスティバルの中で
先端的な取り組みを紹介するアルスエレクトロニカの活動
さらにはもっとディープなギリギリの話まで
ギリギリの挑戦における美意識を語り尽くすトーク・セッションです。

How do people working On the Edge in various fields think?
What process of trial and error do they go through?
This talk session will take a thorough look at the sense of beauty On the Edge,
taking you deeper and closer to the edge for both the artists and companies
involved in the School of the Future, as well as the many innovative activities of
Ars Electronica seen at our festivals each year.



©tom music

©tom music

参加方法 未来の学校祭 特設サイトよりお申し込みください。 http://www.tokyo-midtown.com/jp/event/school_future/

Talk

No. 20

Talk Session 1

ギリギリへの挑戦

🕒19:00 - 20:30 (開場18:45) 🆓無料

📍国際デザイン・リエゾンセンター (ミッドタウン・タワー 5F)
International Design Liaison Center

「ギリギリ・ラボラトリー」に展示された先端的な研究や企業のプロトタイプは、どうやって生まれたのでしょうか。新しい分野や研究、製品を生み出すアーティストや企業の取り組みを紹介し、彼らの挑戦の姿に迫ります。

Moderator ▶ 小川秀明 [アルスエレクトロニカ・ジャパン ディレクター]

Speaker ※逐次通訳



寛 康明
メディアアーティスト、
インタラクティブメディア研究者



細尾真孝
株式会社細尾
常務取締役



ジュリア・トマゼッロ
デザイナー、リサーチャー



深堀 昂
ANAホールディングス
株式会社

Talk

No. 21

Talk Session 2

アルスエレクトロニカのギリギリ

🕒13:00 - 15:00 (開場12:45) 🆓無料

📍ミッドタウン・カンファレンス ROOM 9 (ミッドタウン・タワー 4F)
Midtown Conference ROOM 9

約40年前から、その時々アート・テクノロジー・社会の最前線にあるギリギリの表現やチャレンジを取り上げ、紹介し、ディスカッションを行ってきたアルスエレクトロニカにおけるギリギリの取り組みを語ります。

Moderator ▶ 小川絵美子 [ブリ・アルスエレクトロニカ ヘッド]

Speaker ※逐次通訳



マーティン・ホンツィック
アルスエレクトロニカ・
フェスティバル ディレクター



松島倫明
『WIRED』日本版編集長



尾崎ヒロミ (スブツニ子!)
アーティスト
東京大学 特任准教授



齋藤精一
ライゾマティクス
クリエイティブ・ディレクター
テクニカル・ディレクター

Talk

No. 22

Talk Session 3

アーティスト・イン・カンパニー

🕒16:00 - 18:00 (開場15:45) 🆓無料

📍ミッドタウン・カンファレンス ROOM 9 (ミッドタウン・タワー 4F)
Midtown Conference ROOM 9

今、企業で働くだけでなく、企業に求められるアーティストが増えています。ビジネスとアートが接触するまさにその境界に立つ企業のアーティストとともに、現在の日本社会で求められているアーティストについて語り尽くします。

Moderator ▶ 小川秀明 [アルスエレクトロニカ・ジャパン ディレクター]

Speaker



滝戸ドリタ
アーティスト



Ryo Kishi
アーティスト



後藤映則
アーティスト



福原志保
アーティスト

Talk

No. 23

Talk Session 4

メディアアートは
TOKYOを変えられるか?

🕒19:00 - 20:30 (開場18:45) 🆓無料

📍ミッドタウン・カンファレンス ROOM 9 (ミッドタウン・タワー 4F)
Midtown Conference ROOM 9

2月に東京で開催されるさまざまなフェスティバルのオーガナイザーが一堂に会し、新しい表現に注目した東京のフェスティバルの可能性についてディスカッション。メディアアートという表現方法の魅力に迫ります。

Moderator ▶ 久納鏡子 [アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ、アーティスト]

Speaker ※逐次通訳



ゲルフリート・シュトッカー
アルスエレクトロニカ
総合芸術監督



谷川じゅんじ
一般社団法人Media
Ambition Tokyo 代表理事
JTQ inc.



サンソン・シルヴァン
フランス大使館 文化担当官/
アンスティチュ・フランセ日本



石綿祐子
アーツカウンシル東京

Talk

No. 24

Talk Session 5

21世紀の粹1ー生物と人工物の境界ー

🕒13:00 - 15:00 (開場12:45) 🆓無料

📍国際デザイン・リエゾンセンター (ミッドタウン・タワー 5F)
International Design Liaison Center

AIやロボットといったテクノロジー、医療技術の発達によってますますあいまいになる生物と人工物の境界。こうした境界に迫る「ギリギリ・スクエア」のアーティストたちが、自身の作品とそのアプローチを紹介し、議論します。

Moderator ▶ 久納鏡子 [アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ、アーティスト]

Speaker ※逐次通訳



Cod.Act
アーティスト



藤堂高行
アーティスト



長谷川 愛
アーティスト
デザイナー

Talk

No. 25

Talk Session 6

21世紀の粹2ー日常と非日常の境界ー

🕒16:00 - 18:00 (開場15:45) 🆓無料

📍国際デザイン・リエゾンセンター (ミッドタウン・タワー 5F)
International Design Liaison Center

日常的な現象を、ちょっと変わった方法で見る「ギリギリ・ルーム」のアーティストたち。作品についてアーティスト自身が語り、日常を非日常に変えるヒントやそのためのものの見方について議論を深めます。

Moderator ▶ 小川絵美子 [ブリ・アルスエレクトロニカ ヘッド]

Speaker ※逐次通訳



ジェイコブ・トンスキー
アーティスト



ヴェレーナ・フリードリヒ
アーティスト



Ryo Kishi
アーティスト

20

21

TIME TABLE

	ギリギリ・エキシビション GiriGiri Exhibition	ギリギリ・パフォーマンス GiriGiri Performance	ギリギリ・ワークショップ GiriGiri Workshop	ギリギリ・トーク GiriGiri Talk
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00				
16:00	2.21 THU			
17:00				
18:00				
19:00				
20:00				
21:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00				
16:00	2.22 FRI			
17:00				
18:00				
19:00				
20:00				
21:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00				
16:00	2.23 SAT			
17:00				
18:00				
19:00				
20:00				
21:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00				
16:00	2.24 SUN			
17:00				
18:00				
19:00				
20:00				
21:00				

PARTNERS

Company



Embassy

FLIGHT PARTNER



MEDIA PARTNER



EVENT PARTNER



SUPPORTS



助成:公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

COLLABORATION PARTNER



ORGANIZER



INFORMATION

ショップ・レストランの営業時間 Opening hours of shops and restaurants

ショップ Shops ▶ 11:00 – 21:00 | レストラン Restaurants ▶ 11:00 – 24:00

※一部店舗により異なります。詳しくはフロアガイドをご確認ください。
*Some shops keep different hours. Please check the floor guide for full details.

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-1
東京ミッドタウン・コールセンター
03-3475-3100 [受付時間 10:00-21:00]

東京ミッドタウン / TOKYO MIDTOWN
<http://www.tokyo-midtown.com/>

